

1. 河川環境の現状と課題

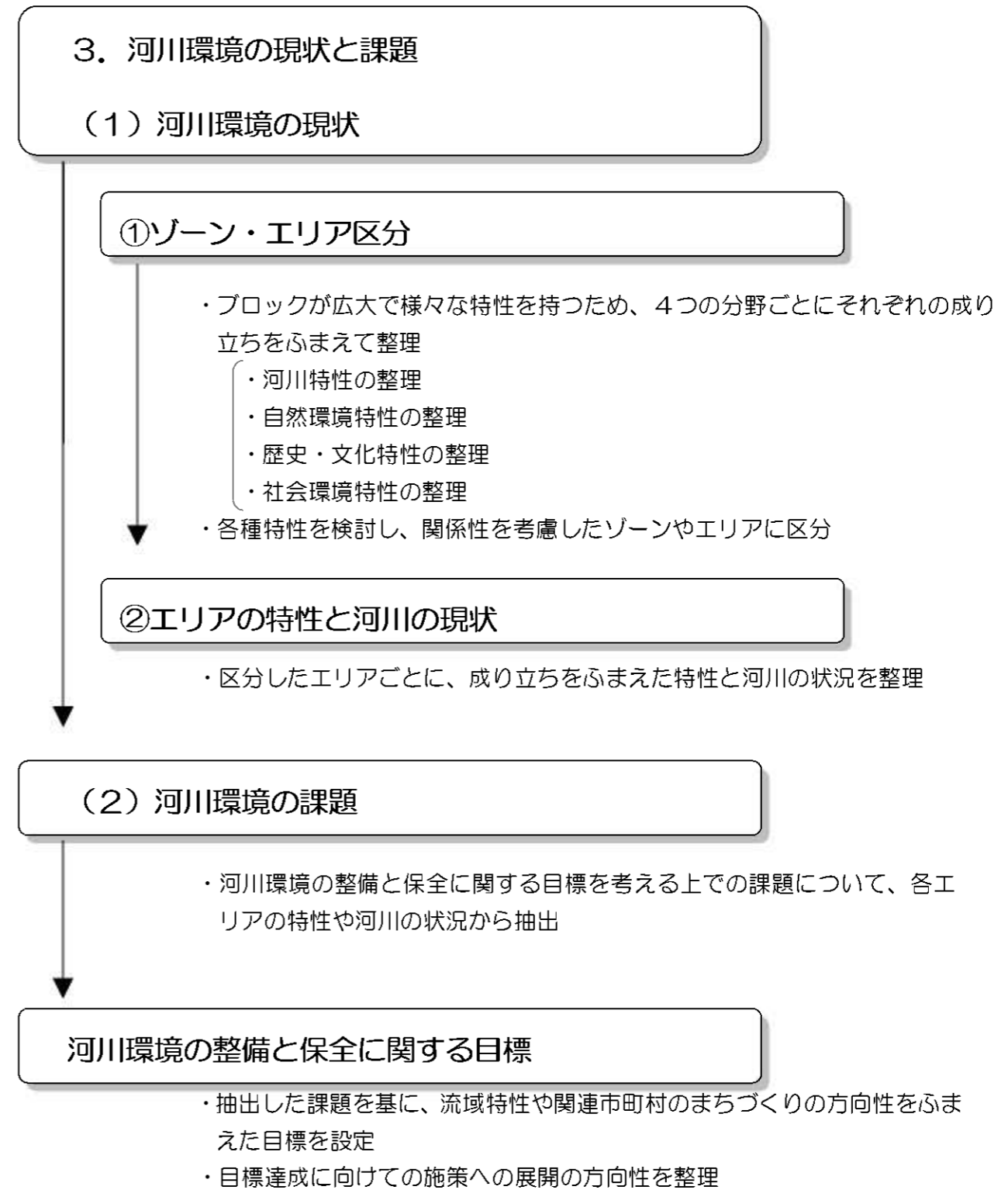
(1) 河川環境の現状

① ゾーン・エリア区分

石川ブロックは、流路延長約 36km、流域面積約 222km²で南大阪最大の河川である石川を含むブロックであり、このため、山地、農地、市街地といった様々な流域特性を持っています。この流域特性は、過去から河川とそれに伴う自然環境があり、その恵みを受けるよう、川のまわりには、田畑や舟運、そこから人の流れとして街道がつながり、人の営みが発生し、歴史・文化が形作られました。その結果、川の周りには里地が広がり、街道の周りには市街地が広がっています。

このような流域の成り立ちを把握することは、本来の流域の持っている特性を知ることにもつながるものとなるため、各種特性を検討し、特性に応じたゾーンやエリアに区分し、それぞれの現状と課題を把握し、目標を設定していく必要があります。

[河川環境の整備と保全に関する目標設定までのフロー]



石川ブロックは、流路延長約 36km、流域面積約 222km²で南大阪最大の河川である石川を含むブロックであり、このため、山地、農地、市街地といった様々な流域特性を持っています。この流域特性は、過去から河川とそれに伴う自然環境があり、その恵みを受けるよう、川のまわりには、田畑や舟運、そこから人の流れとして街道がつながり、人の営みが発生し、歴史・文化が形作られました。その結果、川の周りには里地が広がり、街道の周りには市街地が広がっています。このような流域の成り立ちを把握することは、本来の流域の持っている特性を知ることにもつながるものとなるため、各種特性を検討し、特性に応じたゾーンやエリアに区分し、それぞれの現状と課題を把握し、目標を設定していく必要があります。

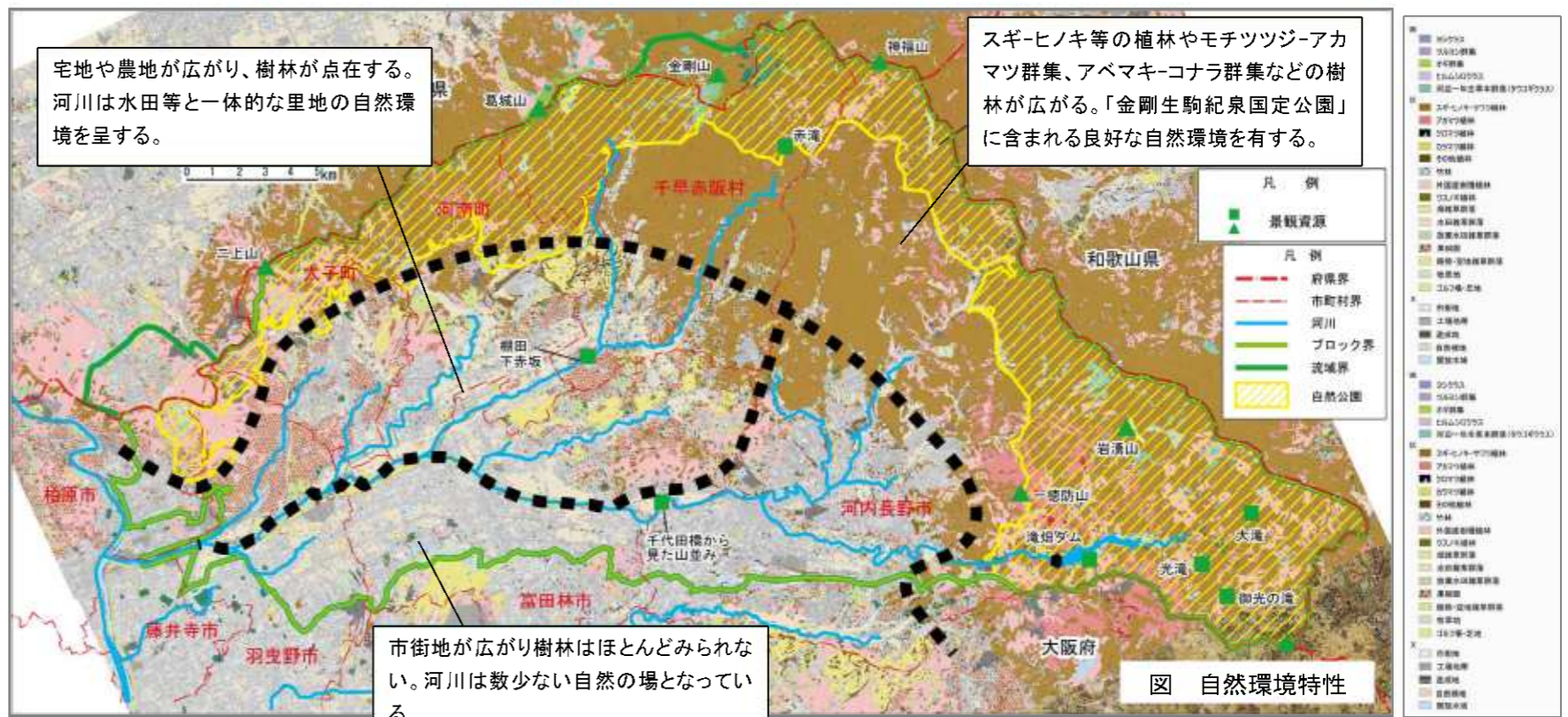
【河川特性】

河川特性の状況をみると、石川ブロックの河川は、金剛生駒葛城山系の山々に源を発し、上流部は蛇行を繰り返す、勾配が急で瀬、淵が連続する溪流の様相を呈します。段丘地、低地を流れる中流から下流にかけては、やや直線的な区間が多くなり、勾配が緩く、川幅が広がり、瀬、淵のほか、堰による湛水域が見られるようになります。特に石川下流部は、川幅 100m 以上の区間が連続します。

【自然環境特性】

自然環境特性の状況をみると、魚類や鳥類等の生物の生息状況のほか、基盤となる植生の分布状況などに着目すると、樹林の広がる東部、南部、宅地や農地が広がり樹林が点在する中央部、比較的樹林の少ない西部の大きく3つの地域に分けて捉えることができます。

東部、南部はスギ・ヒノキ等の植林が大部分を占める樹林が広がる山地となっています。河川は樹林と一体となった良好な自然環境を呈し、ヤマセミ、カワガラス等の鳥類、アブラハヤ、タカハヤ等の魚類、サワガニ、カワニナ等の水生生物、ムカシトンボ等の昆虫類など、上流域を特徴づける生物が生息します。中央部では、河川は農地周辺では水田や水路と一体的な里地の自然環境を呈し、西部では数少ない自然環境となっていて、イカルチドリ、オオヨシキリ等の鳥類、コイ、ギンブナ等の魚類、サカマキガイ、ミズムシ等の水生生物、カワラバッタ、キイロヤマトンボ等の昆虫類など、中下流域を特徴づける生物が生息するなど、河川は多様な動植物の生息・生育環境を育んでいます。

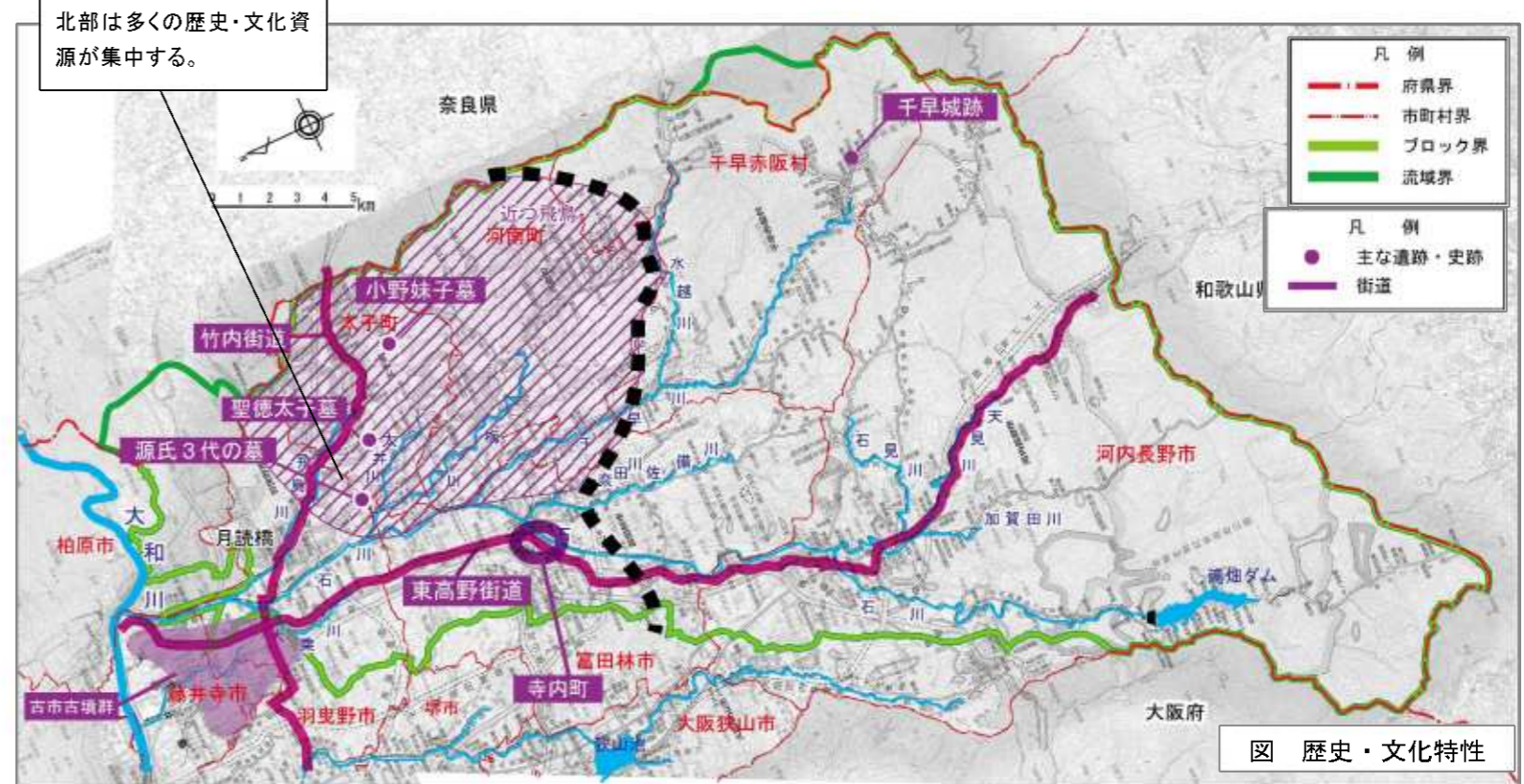


【歴史・文化特性】

歴史・文化特性の状況をみると、地域の成り立ちや歴史の表舞台となった時代などから、北部と南部の大きく2つの地域に分けて捉えることができます。

北部では、大和川合流点付近の古市古墳群で4～6世紀に多くの古墳が造られています。飛鳥時代には、飛鳥川沿いに奈良を結ぶ竹内街道が整備され、千早川周辺に至る地域は「近つ飛鳥」と呼ばれました。この地域には聖徳太子、小野妹子などの墓があり、古来より神聖な場所として位置付けられていたことが伺われます。平安時代には、石川沿いに京の都と高野山を結ぶ東高野街道が整備され、江戸時代には寺内町で造り酒屋などが栄え、石川は大阪へ往來する剣先船による水運が行われました。

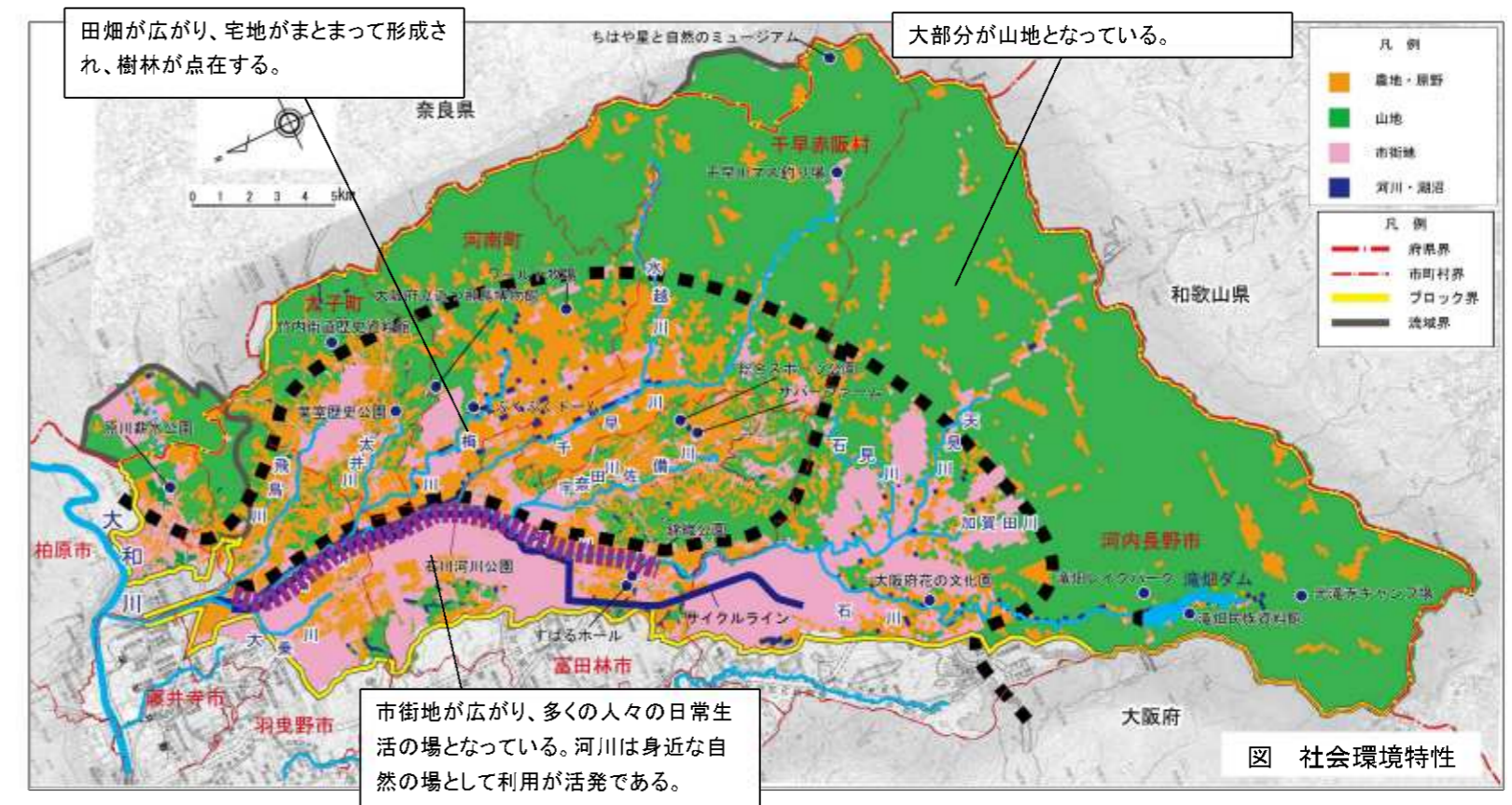
一方、南部では、鎌倉幕府倒幕で活躍した楠木正成が築城した千早城跡などが残っています。



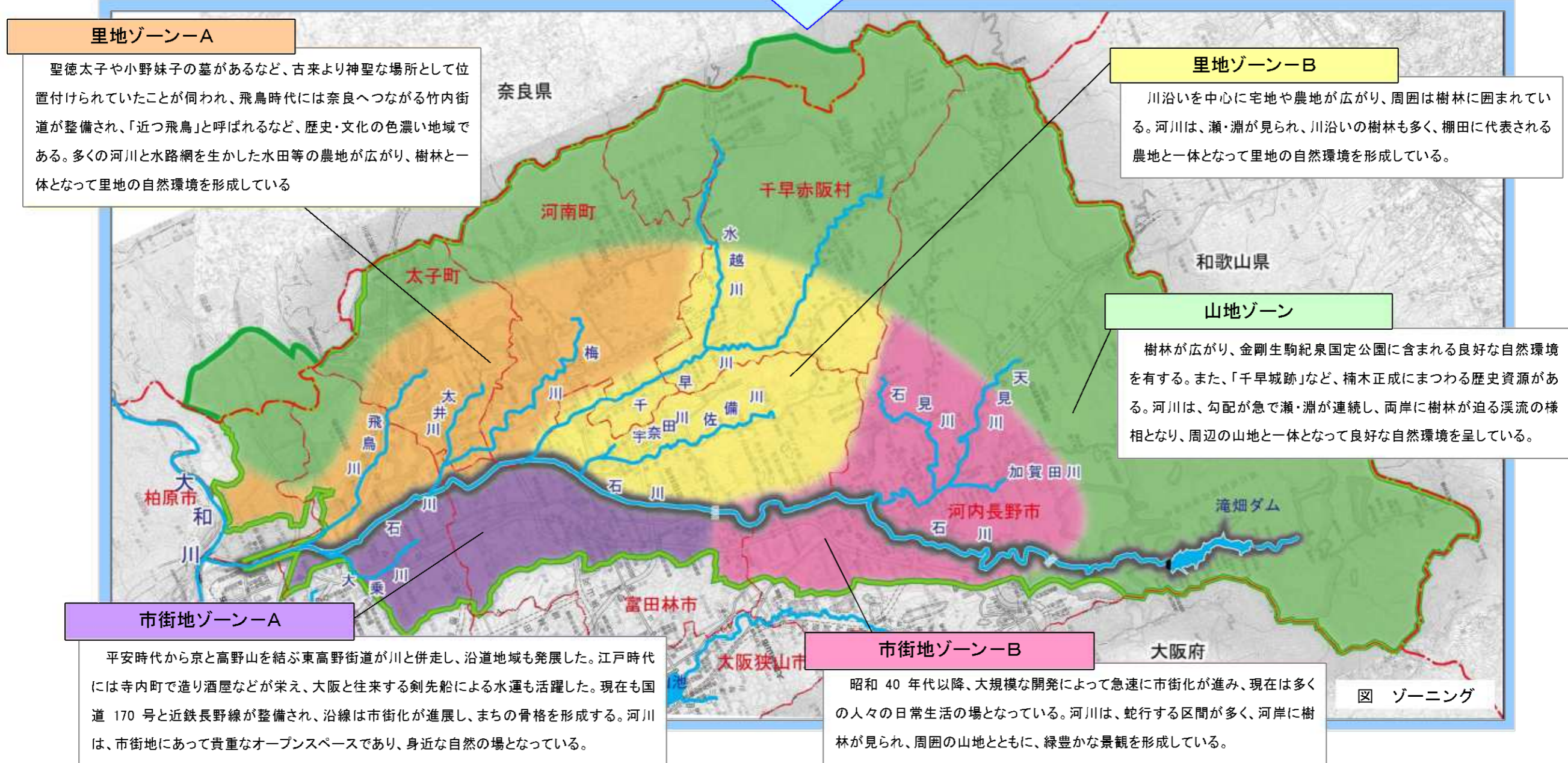
【社会環境特性】

社会環境特性の状況をみると、基盤となる土地利用の状況などに着目すると、樹林が広がる山地である東部、南部、農地や宅地のなかに樹林が点在する中央部、市街地が広がる西部の大きく3つの地域に分けて捉えることができます。

東部、南部は、人口は減少傾向にあり、林業は後継者不足等による放置林が増加しています。中央部は、人口は横ばい傾向にあり、農業は後継者不足等による耕作放棄地が増加しています。西部は、羽曳野市、富田林市周辺は古くから市街地が開け、河内長野市周辺は昭和40年代以降の急激な宅地開発により、市街地が広がっています。中央部と西部の境界を成している石川は、広い河川敷を活用した河川公園などの利用が活発です。



石川ブロックは、河川特性、自然環境特性、歴史・文化特性、社会環境特性の状況をふまえると、「市街地ゾーン-A」、「市街地ゾーン-B」、「里地ゾーン-A」、「里地ゾーン-B」、「山地ゾーン」の大きく5つのゾーンに分かれます。さらに、複数のゾーンにまたがり特徴的な空間を形成する石川沿いの区域を1つのエリアとして捉えると、6つの区域に区分されます。



【河川からみたエリアの概要】

本支川	ゾーン	エリア	概要	河川	市町村
石川本川	市街地ゾーン	A	1)石川下流エリア <ul style="list-style-type: none"> 勾配が緩やかで、川幅が広く、堤防が整備されている。 平安時代の「東高野街道」が併走するほか、江戸時代には「寺内町」が栄え、「剣先船」による水運が行われているなど、古くから栄えた地域を流れる。 川幅が広く、河川や川沿いを利用する施設が連続的に整備され、活発な利用がなされるなど。(石川河川公園、サイクルライン など) 河川は数少ない身近な自然の場となっている。 石川河川公園(自然ゾーン)におけるワークショップの実施、アドプト・リバープログラムや石川河川敷花いっぱい運動、大和川・石川クリーン大作戦など、住民活動が盛んである。 	石川下流部	柏原市 羽曳野市 富田林市
	里地ゾーン	A			
		B			
市街地ゾーン	B	2)石川中流エリア <ul style="list-style-type: none"> 河川と川沿いの樹林は、市街地において貴重な緑空間となっている。 河川周辺は市街地が広がり、多くの人々の日常生活の場となっている。 アドプト・リバープログラムを実施している。 	石川中流部	富田林市 河内長野市	
	山地ゾーン	-	3)石川上流エリア <ul style="list-style-type: none"> 河川は、勾配が急で瀬・淵が連続し、両岸に樹林が迫る溪流の様相となり、周辺の山地と一体となって良好な自然環境を呈する。 河川周辺には、滝畑レイクパークなどの公共・レクリエーション施設がある。 	石川上流部	河内長野市
支川	市街地ゾーン	A	4)大乗川エリア <ul style="list-style-type: none"> 平安時代の「東高野街道」が併走するほか、江戸時代には「寺内町」が栄えるなど、古くから栄えた地域を流れる。 河川周辺は市街地が広がり、多くの人々の日常生活の場となっている。 河川は数少ない身近な自然の場となっている。 	大乗川	羽曳野市
		B	5)天見川下流エリア <ul style="list-style-type: none"> 河川と川沿いの樹林は、市街地において貴重な緑空間となっている。 河川周辺は市街地が広がり、多くの人々の日常生活の場となっている。 	天見川下流部 加賀田川、石見川	富田林市 河内長野市
	里地ゾーン	A	6)飛鳥川エリア <ul style="list-style-type: none"> 飛鳥時代の「竹内街道」がとおるなど、古来より交通の要衝であり、政治上重要な地域であったため、多くの歴史、文化資源が集中する地域を流れる。(月読み橋、聖徳太子の墓、小野妹子の墓、弘川寺 など) 周辺には「近つ飛鳥博物館」、「葉室歴史公園」などの公共・レクリエーション施設がある。 河川は農地や樹林と一体となって里地の自然環境を形成している。 	梅川 太井川 飛鳥川	羽曳野市 太子町 河南町 富田林市
		B	7)千早川下流 ・佐備川エリア <ul style="list-style-type: none"> 体験農園などのある「サバーファーム」などの公共・レクリエーション施設がある。 川沿いの樹林が多く、棚田に代表される農地と一体となって里地の自然環境を形成している。 佐備川では、アドプト・リバープログラムを実施している。 	佐備川、宇奈田川 千早川下流部 水越川下流部	富田林市 千早赤阪村
	山地ゾーン	-	8)千早川上流 ・天見川上流エリア <ul style="list-style-type: none"> 河川は、勾配が急で瀬・淵が連続し、両岸に樹林が迫る溪流の様相となり、周辺の山地と一体となって良好な自然環境を呈する。 河川周辺には、「千早城跡」、「歎心寺」など歴史的人物(楠木正成)にまつわる資源がある。 	天見川上流部 千早川上流部 水越川上流部	羽曳野市 太子町、河南町 千早赤阪村 河内長野市

